

溪流遊漁者の年齢構成等の変化

吉岡 剛

1. 目的

令和5年12月から令和6年7月(以下2024年)にかけて県内河川を訪れる溪流釣り遊漁者のニーズ把握を目的にアンケート調査を実施した。平成12年2月から5月(以下2000年)にも同様のアンケート調査を実施していることから、遊漁者の年齢構成等について24年前との比較を行った。

2. 方法

アンケート項目は、年齢、釣法、魚の持ち帰り状況とし、項目ごとに2024年と2000年の比較を行った。

3. 結果

アンケートの回収数は2024年が393枚、2000年が367枚であった。

年齢について2000年は40代以下が全体の72.2%を占めていたが、2024年は50代以上が全体の73.5%を占めており、県内を訪れる遊漁者の高齢化が明らかとなった(図1)。

釣法について2000年は餌釣りが半数を超えていたが、2024年は疑似餌(ルアー・フライ・テンカラ)を使った釣りが半数を超える結果となった(図2)。

釣った魚の持ち帰り状況について2000年は

全て持ち帰るが全体の3割を超えていたが、2024年は全て放流すると一部持ち帰るが半数を超え、必要な分(5尾程度)だけ持ち帰る遊漁者が増加した(図3)。

溪流遊漁者の増加には、若年層のニーズを把握し、それに応じた漁場づくりに努める必要がある。

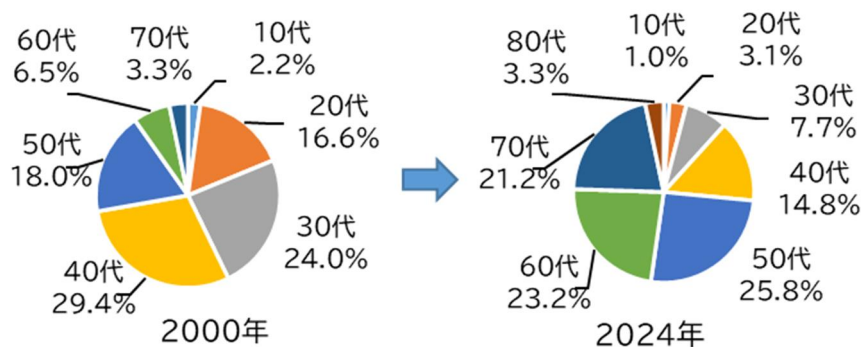


図1 溪流遊漁者の年齢

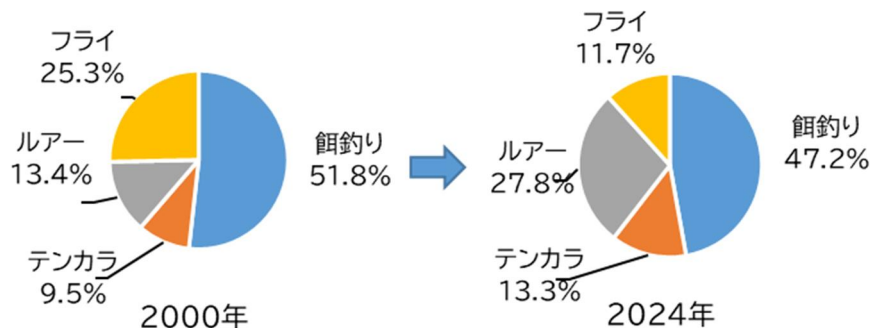


図2 溪流遊漁者の釣法

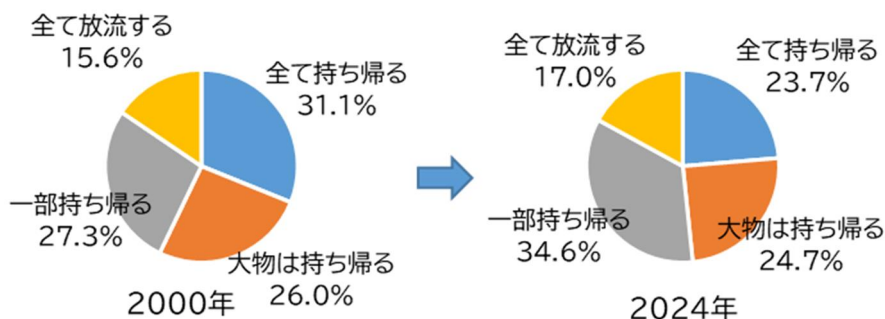


図3 溪流魚の持ち帰り状況